

令和6年度 滋賀医科大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）

—がん専門医療人養成コース—

学 生 募 集

「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」は、京都大学を主幹校として滋賀医科大学、三重大学、大阪医科薬科大学、京都薬科大学の5大学が連携し、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築することにより、専門的知識と高度な技術、確固たる倫理観を兼ね備えた多くの博士研究者・がん専門医療人の養成を行う事業です。

本学においては、大学院医学系研究科博士課程医学専攻の中に、複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース、先制がん医療を担う薬剤師養成コース、ゲノム医療を担う臨床遺伝専門医養成コース、がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース、地域の放射線医療を担う医療人養成コースを設置したものです。

また、本コースへの応募は、大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）へ入学を志願（出願）することで兼ねます。出願資格、出願手続等は、同課程の学生募集要項の記載の内容と同じです。

出願に関しては、入学志願票の志望コースを「高度医療人コース がん専門医療人養成コース」とし、講座名等に以下のいずれかのコース名を記入してください。分野名等の記入は不要です。

高度医療人コース がん専門医療人養成コース

受入可能人数：若干名

【複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース】

コース責任者：醍醐 弥太郎

【先制がん医療を担う薬剤師養成コース】

コース責任者：森田 真也

【ゲノム医療を担う臨床遺伝専門医養成コース】

コース責任者：丸尾 良浩

【がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース】

コース責任者：谷 眞至

【地域の放射線医療を担う医療人養成コース】

コース責任者：渡邊 嘉之

修了要件及び履修方法

所定の単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

授業科目及び単位数表

授業科目表参照

本件に関する問い合わせ先

滋賀医科大学学生課大学院教育支援係

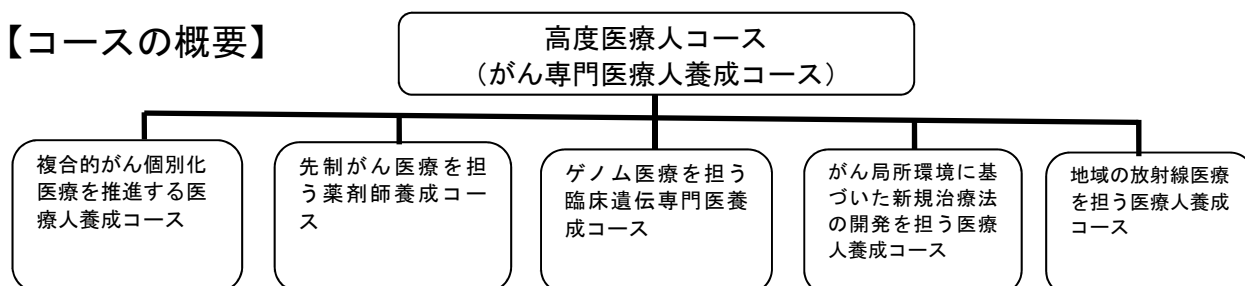
電話：077-548-2095・2096

【カリキュラムの特徴】

「がん専門医療人養成コース」は従来の大学院の枠組みに加え、臨床の専門医や医療資格の獲得を目的としており、学外の病院に勤務している医師や医療スタッフ（社会人）にも受けやすい体制、内容、目的となっている。

難治がんに対する複合的がん個別化医療、先制がん医療、ゲノム医療、がん局所環境に基づいた新規治療、地域の放射線医療を担う医療従事者の養成に重点を置いている。

【コースの概要】



《ディレクター：醍醐 弥太郎 教授》

複合的がん個別化医療を推進する医療人養成コース

（責任者：醍醐 弥太郎 教授）

複合的がん個別化医療に精通したチーム医療を担う医療従事者（医師、医療スタッフ、医療開発研究者等）であるとともに、多角的オミックス情報を用いたがん薬物療法、緩和ケア、ゲノム医療、チーム医療等及びがんの分子病態に基づいた先端的がん医療開発に従事できる高度かつ国際的・学際的能力を備えた人材を育成する。

先制がん医療を担う薬剤師養成コース

（責任者：森田 真也 教授）

がん予防のためには、ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスなどのマルチオミックス解析によるがんバイオマーカー探索の研究の推進が必要である。がんバイオマーカーを分析し、医療ビッグデータを適切に解析することで、患者個々に合わせたがん予防ならびに治療を効果的に臨床応用し、エビデンスを蓄積できる薬剤師研究者を養成する。

ゲノム医療を担う臨床遺伝専門医養成コース

（責任者：丸尾 良浩 教授）

小児血液がんにおける、最新の診断法と最新の治療を熟知し、それを基にして、さらなる小児血液がんの治癒生存率の向上、晩期合併症の軽減をはかるための、新規診断法の開発や、効果的な治療法の開発を遂行できる医療人を育成する。がんゲノム医療に対応できる臨床遺伝専門医の育成も行う。

がん局所環境に基づいた新規治療法の開発を担う医療人養成コース

（責任者：谷 眞至 教授）

がん局所環境によるがん細胞の特性変化に基づいた新規治療法の開発を目指すとともに、今後の研究の継続を担う医療人を育成する。

地域の放射線医療を担う医療人養成コース

（責任者：渡邊 嘉之 教授）

基礎的ながん放射線治療法に習熟しているばかりでなく、定位放射線治療、強度変調放射線治療、小線源治療などの高度放射線治療にも対応できる高い知識と技能を持った放射線治療医や診療放射線技師及び地域医療機関での放射線治療の質的向上のために、他職種とのチーム医療や教育にも熱意と能力を持った医療人を育成する。

授業科目表

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態（講義・演習・実習の別）	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修
					前期	後期			
共通	基盤教育群	医学総合特論Ⅰ	講義	1～3	○		3	30	必修
		医学総合特論Ⅱ	講義	1～3		○	3	30	必修
		テクニカルセミナー	演習	1～3	○		2	30	必修
		医学・生命倫理学概論	講義	1～3	○		1	15	必修
		疫学・医療統計学概論	講義	1～3	○		1	15	必修
		基礎と臨床の融合セミナーⅠ	演習	1～3	○		2	30	選択必修
		基礎と臨床の融合セミナーⅡ	演習	1～4		○	2	30	選択必修
がん全コース	共通必修科目	がん基礎学	講義	1		○	2	30	必修
		ゲノム医学	講義	1		○	2	30	必修
		緩和ケア学	講義	1		○	2	30	必修
	共通選択科目	腫瘍薬剤学	講義	1		○	2	30	選択
		放射線腫瘍学	講義	1		○	2	30	選択
（コースを複合的に推進するがん医療人養成課程教授）	コース必修科目	がん薬物療法学総論	講義	1		○	2	30	必修
		がん薬物療法学特論	演習	1		○	4	120	必修
	コース選択科目	がん薬物療法学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		臨床腫瘍学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	○		2	90	選択
		遺伝統計学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
（薬剤師養成がん医療を担うコース長森田教授）	コース必修科目	臨床腫瘍薬剤学総論	講義	1	○		2	30	必修
		臨床腫瘍薬剤学特論	演習	1		○	4	120	必修
	コース選択科目	臨床腫瘍薬剤学実習	実習	2～3	○		2	90	選択
		臨床腫瘍学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	○		2	90	選択
		遺伝統計学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
（遺伝ゲノム医療を担う臨床コース長丸尾教授）	コース必修科目	小児科学総論	講義	1	○		2	30	必修
		小児科学特論	演習	1		○	4	120	必修
	コース選択科目	小児科学実習（がん）	実習	2～3		○	2	90	選択
		臨床腫瘍学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	○		2	90	選択
		遺伝統計学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
（がん研究の最新医療環境に基づいたがん診療の推進コース長谷教授）	コース必修科目	がん病態制御学総論	講義	1	○		2	30	必修
		がん病態制御学特論	演習	1		○	4	120	必修
	コース選択科目	がん病態制御学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		消化器外科学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		乳腺・一般外科学実習	実習	2～3	○		2	90	選択
（地域の放射線医療を担う放射線科コース長渡邉教授）	コース必修科目	放射線科学総論	講義	1	○		2	30	必修
		放射線科学特論	演習	1	○		4	120	必修
	コース選択科目	放射線科学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		放射線腫瘍学・画像応用治療学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		高精度放射線治療学実習	実習	2～3		○	2	90	選択
		腫瘍診断学実習	実習	2～3		○	2	90	選択

履修方法

※共通区分基盤教育群コースから必修科目10単位、選択必修科目2単位、がん全コース必修科目から6単位、選択科目から2単位以上、各コースのコース必修科目から6単位、コース選択科目から4単位以上を履修するものとする。